

不安を抱える女性を対象とした支援 (相談窓口の運営及び居場所づくり)【京都市】

| | |
|------|----------|
| 総事業費 | 4,000 千円 |
| 交付金額 | 2,000 千円 |

地域の実情と課題

【実情】
 ・コロナ感染拡大以降、無償労働(家事・育児・介護)時間が平均的に増加したが、特に有配偶女性で増加した人の割合が高かった(32.5%)。また、特に6歳未満の子どもと同居している女性において「負担が増えている」と回答した割合が高かった(女性32.7%、男性14.6%)。
 ・コロナ感染拡大以降、家庭外との接触の制限によって「健康や精神的に不安(孤立感など)を感じている」と回答した割合が、男性に比べ、女性が高かった(有配偶女性30.3%、無配偶女性33.2%、有配偶男性21.9%、無配偶男性20.0%)。

【課題】
 内閣府において公表された「コロナ下の女性への影響と課題に関する研究会報告書」において、増加している女性の自殺の原因として、経済生活問題、勤務問題、DV被害や育児の悩み、介護疲れや精神疾患などの問題があるとの指摘がなされ、本市においても対象者への早急な支援が求められている。

事業の特徴

孤独・孤立で不安や困難・課題を抱える女性に寄り添い、社会とのつながりの回復を目的として、相談支援等を行うとともに、女性が日々の悩みを語り合える居場所の提供を実施。

①相談事業
 孤独・孤立や困難・課題を抱える女性を対象とした相談窓口「つながる相談室」を、京都市男女共同参画センターにおいて運営した。相談手法としては、電話相談、面接又はオンライン相談とし、心理面での寄り添ったサポートを行うとともに、状況に応じて、生活困窮者自立相談支援事業、DV相談支援センター、京都市女性のための相談支援センター「みんと」等の必要な相談窓口の情報提供を行うなど、連携を図った。

②居場所づくりの実施
 孤独・孤立や困難・課題を抱える女性のうち、更年期障害に不安を抱える女性、これから更年期障害を迎えるにあたり不安を抱える女性を対象に、「女性のための更年期ケアセミナー～もっとごきげんに快適に～」をテーマにした居場所づくり講座を実施した。事業実施に当たっては、参加者同士で更年期障害の悩みや不安を語り合える場の提供や講師への質問・相談時間を設けるなど、対象者に即して事業を行った。また、複数かつ複雑な問題を抱える対象者の重層的な支援につなげるため、女性支援を行う民間団体を対象とする勉強会兼情報交換会を行った。

目的・目標

【目的】
 孤独・孤立で不安や困難・課題を抱える女性に寄り添い、社会とのつながりの回復を目的として、相談支援等を継続するとともに、女性が日々の悩みを語り合える居場所づくりを実施。

【目標】
 ①相談窓口で受け付けた相談件数 916件⇒実績840件 (目標達成度:92%)
 ②居場所の参加者数 60名⇒実績 63名 (目標達成度:105%)

事業の効果

・相談窓口では相談者それぞれの悩みに寄り添いながら、適切な窓口につなぐ等、解決や不安の軽減に向けてエンパワメントの方向性を探ることができた。相談主訴については、令和6年度が「自分の落ち込み」に関するものが25%を占め最も多かったが、令和7年度は「家族の悩み」に関するものが一番多く、全体の27%を占めた。
 ・女性支援を行う民間団体同士の勉強会兼情報交換会については、今回は困難を抱える方の雇用に取り組む企業をゲストに迎え、受け入れ側の企業と「顔が見える関係」でつながることで、女性の再出発を就業面から後押しする新たなパイプ作りができた。また、継続した連携に向けて団体間のメーリングリストも活用し、参画団体間の情報共有や広報等で活用することで、支援機能を強化することができた。
 ・居場所づくり講座では、専門的な知識の習得だけでなく、同じ立場同士での交流により、不安や孤独感を軽減し前向きになるきっかけを提供できた。

連携団体

<「輝く女性応援京都会議」構成団体>
 京都府、京都市、京都労働局、京都商工会議所、京都商工会議所女性会、京都府商工会議所連合会、京都府商工会議所女性会連合会、京都府商工会連合会、京都府中小企業団体中央会、京都府中小企業女性中央会、京都経営者協会、京都経済同友会、京都工業会、京都府商工会女性部連合会、日本労働組合総連合会京都府連合会、国際ソロプチミスト京都、国際ソントラ京都市クラブ、大学コンソーシアム京都、日本政策金融公庫、21世紀職業財団関西事務所、京都府男女共同参画センター、京都市男女共同参画センター

<その他>
 NPO法人、社会福祉法人等 (ひとり親支援を行う団体、障害者支援を行う団体 等)

今後の課題

・相談窓口については令和8年度から、既存の「女性のための相談窓口」と統合し、不安を抱える女性の相談を包括的に受け付けることとする。悩みが多岐に渡るため、市のDVセンターや女性のための相談支援センター「みんと」をはじめ、各種窓口や団体等との連携がますます重要になるため、支援機関同士の勉強会や交流会をより効果的なものとしていく必要がある。
 ・女性特有の健康面や精神面での悩みは尽きず、一人で抱え込んでしまう女性が多いため、今後も「悩んでいるのは自分だけはない」ということが分かり、同じ悩みを共有できる場を提供することが大切だが、対象とする世代やテーマについて検討が必要と考える。

事業の概要①

■相談事業の実施（「つながる相談室」）

内 容

孤独・孤立で不安や困難・課題等を抱える女性を対象とした相談窓口（「つながる相談室」）を、京都市男女共同参画センターにおいて運営した。

相談手法は、電話相談、面接又はオンライン相談と、面接相談者に対しては必要に応じて、行政相談員等が同席し、適切な施策利用についての助言等を行った。

相談員には、精神保健福祉士等の有資格者を起用し、相談事業の開始に先立って、専門家による研修を受講させ、心理面での寄り添ったサポートを行うとともに、状況に応じて、生活困窮者自立相談支援事業、京都市DV相談支援センター、京都市女性のための相談支援センター「みんと」等、必要な相談窓口の情報提供を行った。

相談内容については、つながる相談室実施当初は「仕事」や「孤独・孤立」に関するものが多かったが、令和7年度については前年度と比較しても減少しており、「家族の悩み」に関するものが全体の27%を占めた。その次に「気分の落ち込み」が続く。

令和7年度 相談件数114件 （のべ相談件数841件）

「つながる相談室」は令和7年度をもって終了し、すでに開設している「女性のための相談」と統合されるが、つながる相談室での女性に寄り添った支援を活かし、引き続き、個人が抱えておられる問題や課題の整理を実施していきたい。

つながる相談室

相談無料
市内在住・夜勤・夜学の女性
秘密は厳守します

2021年7月1日～2022年3月31日

なんとなく気分が落ち込み、孤独を感じることはありませんか。
長引く自業生活などによる日常の変化から、しんどさを感じている女性のための相談室です。資格をもった相談員がお話を聞き、必要なサポートを一緒に考えます。

どんな内容でもかまいません

- 産後生活が続き、社会から取り残されている気がする
- 子どものしつけや学習などに悩まれている
- 夫が戻らず、不安を感じている
- 仕事のリズムが崩らされた
- 夫や親戚からの悪言を吐かれる
- 子育ての悩み など...

電話相談窓口 **(075)-275-0280**
京都市男女共同参画センター ウィングス京都

月～土曜（水曜休室）
10:00～17:00
※祝日・年末年始は休業

オンライン相談可
希望者に直接相談有り
（要予約）

相談予約
詳細はこちら

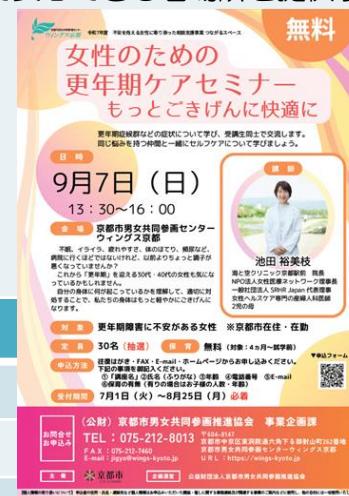
京都市男女共同参画センター ウィングス京都
〒604-8547 京都市中京区東洞院通六下る錦山町26番地
☎ 075-212-8013

関係機関
月～土 9:00～21:00 / 夜 9:00～17:00
お問い合わせ
https://www.wings-kyoto.jp/

事業の概要②

■居場所づくりの実施1(「つながるスペース」)

| | |
|------|--|
| 開催日時 | 令和7年9月7日(日) |
| 会場 | 京都市男女共同参画センター ウィングス京都 |
| 参加者数 | 41名 |
| 内容 | <p>孤独・孤立で不安や困難・課題等を抱える女性を対象とした居場所づくり事業として、更年期障害に不安を抱く女性、これから更年期障害を迎えるにあたり不安を抱く女性を対象に、その症状についての知識とセルフケアを学び、また同じ不安を抱える受講生同士で悩みを分かち合うことで安心できる居場所を提供するセミナーを実施した。</p> <p>■講師：池田 祐美枝(海と空クリニック京都駅前 院長ほか) ■参加者からの声</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ悩みがあるんだと共感や気づきが得られた ・ストレスや自分のせいかと思っていたが、心が軽くなった。 ・これから楽しく過ごせるヒントがたくさんあった。 |



■居場所づくりの実施2(「つながるスペース勉強会」)

| | |
|------|--|
| 開催日時 | 令和8年3月12日(木) |
| 会場 | 京都市男女共同参画センター ウィングス京都 |
| 参加者数 | 22名(14団体) |
| 内容 | <p>困難な問題を抱える女性に寄り添った支援を行うために、主に女性を対象とした居場所づくりや支援を行う団体を対象に、各団体の支援内容や課題等を共有するため、勉強会及び情報交換会を実施した。今回は、困難な問題を抱える人の雇用を続ける市内の事業をゲストに迎え、受け入れ現場の実際を学んだあと、各団体が日々の支援で直面している困難なケースについて話し合い、支援現場の実際を企業の方にも学んでいただきながら、お互いができる支援を組み合わせることで、新たな課題解決を見つけ出す機会となった。</p> |